

## 【ダビデの失敗を教訓として】

名前 \_\_\_\_\_

### 【聖書箇所】 第2サムエル 11章（新改訳第3版/抜粋）

11:1 年が改まり、王たちが出陣するころ、ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエルの全軍とを戦いに出した。彼らはアモン人を滅ぼし、ラバを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。11:2 ある夕暮れ時、ダビデは床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、ひとりの女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。11:3 ダビデは人をやって、その女について調べたところ、「あれはヘテ人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバではありませんか」との報告を受けた。11:4 ダビデは使いの者をやって、その女を召し入れた。女が彼のところに来たので、彼はその女と寝た。——その女は月のものの汚れをきよめていた——それから女は自分の家へ帰った。11:5 女はみごもったので、ダビデに人をやって、告げて言った。「私はみごもりました。」11:6 ダビデはヨアブのところへ人をやって、「ヘテ人ウリヤを私のところに送れ」と言わせた。それでヨアブはウリヤをダビデのところへ送った。11:7 ウリヤが彼のところへ入って来ると、ダビデは、ヨアブは無事であるか、兵士たちも変わらないか、戦いもうまくいっているか、と尋ねた。11:8 それからダビデはウリヤに言った。「家に帰って、あなたの足を洗いなさい。」ウリヤが王宮から出て行くと、王からの贈り物が彼のあとに続いた。11:9 しかしウリヤは、王宮の門のあたりで、自分の主君の家来たちみなといっしょに眠り、自分の家には帰らなかった。11:10 ダビデは、ウリヤが自分の家には帰らなかった、という知らせを聞いて、ウリヤに言った。「あなたは遠征して来たのではないか。なぜ、自分の家に帰らなかったのか。」11:11 ウリヤはダビデに言った。「神の箱も、イスラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。それなのに、私だけが家に帰り、飲み食いして、妻と寝ることができましようか。あなたの前に、あなたのたましいの前に誓います。私は決してそのようなことをいたしません。」

11:12 ダビデはウリヤに言った。「では、きょうもここにとどまるがよい。あすになったらあなたを送り出そう。」それでウリヤはその日と翌日エルサレムにとどまることになった。11:13 ダビデは彼を招いて、自分の前で食べたり飲んだりさせ、彼を酔わせた。夕方、ウリヤは出て行って、自分の主君の家来たちといっしょに自分の寝床で寝た。そして自分の家には行かなかった。11:14 朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、ウリヤに持たせた。11:15 その手紙にはこう書かれてあった。「ウリヤを激戦の真っ正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が打たれて死ぬようにせよ。」11:16 ヨアブは町を見張っていたので、その町の力ある者たちがいると知っていた場所に、ウリヤを配置した。11:17 その町の者が出て来てヨアブと戦ったとき、民のうちダビデの家来たちが倒れ、ヘテ人ウリヤも戦死した。…

11:26 ウリヤの妻は、夫ウリヤが死んだことを聞いて、夫のためにいたみ悲しんだ。11:27 喪が明けると、ダビデは人をやり、彼女を自分の家に迎え入れた。彼女は彼の妻となり、男の子を産んだ。しかし、ダビデの行ったことは【主】のみこころをそこなった。

### 【はじめに】ダビデの失敗をあえて記す聖書

ダビデは、イスラエルの人にとって、国旗に「ダビデの星」をつけるほどに、慕われている英雄である。信仰面においても、やがて家系から救い主が生まれる事が預言され、聖書でも度々取り上げられる信仰の勇者である。しかし、今日学ぶ聖書箇所では、ダビデの醜い罪、失敗が赤裸々に記されている。サムエルによって油注がれて以来、様々な事柄があったとしても、これまでダビデの生涯は絶えず、勝利から勝利へと、神の祝福から祝福へと導かれてきた事が聖書には記されている。しかし、この出来事以降、ダビデにとって胸がさかれるような暗い出来事が自らの家族の中に次から次へと続くようになる。ダビデは、確かに神によって罪赦され、永遠のいのちを得た事は疑いようがない。しかし、ダビデの罪は、この地上生涯において様々な悪影響を及ぼす原因となった事をあえて聖書は記している。私達は、ダビデの失敗の出来事を通して大切な教訓を学ぶ者となろう。

## 1: 私達は、“絶えず”祈る者となろう。11:1~2

当時の戦いは、冬になると休戦し、春になるとまた開始されるというものであった。当然、王たる者は率先して軍を率いて戦いに行くはずであった。しかし、ほとんどの軍勢はつかわしていたにもかかわらず、ダビデは戦場に出て行かなかった。それどころか、午睡し夕方に起き上がるほどダビデの生活はゆるみきっていた。

サウル王に追われ命からがら逃げている時や、隣国との戦いの中にある時は、神に祈り、神の助けによって目に見える戦いにも、罪の力にもダビデは勝利してきた。しかし、本来、祈り神の助けを受けて率先して戦いに行くべきときに、いかなかったダビデは、部下の功績により戦闘には勝利したが、罪の力に敗北した。

ここに教訓がある。私達の信仰生活においても、神の安息の時があり、また戦いの時がある。そして、本来戦わなければならない時に、休んでいると足元をすくわれる。

それまでは、皆と一緒に祈り、奉仕し、伝道していたが、自分の生活も、教会もうまくいっているし、自分一人くらいぬけても大丈夫だと思っていると、思わぬ落とし穴に陥るのである。

確かに、伝道する事、奉仕するという事は、霊的な戦いの現場に身を置くことであり、霊的な力が必要とされる。そして、伝道、奉仕を支えるのは祈りであり、また、敵であるサタンとの戦いの主戦場である。主イエスご自身も十字架の直前において、祈りにおいて既に暗闇の力に勝利しておられた。もし、私達が個人の生活において、又、共に集まって祈る事をやめるなら、私達の人生にも敗北が近寄ってくる事を心に刻もう。

私達は絶えず祈る者となろう。神の前に出て、み言葉を通して語られる神の声を聴き、又、自らの為に、家族、教会の為に祈り続ける者となろう。

### ●聖書の約束

「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。」マルコ14:38

## 2: 私達は、“神”の喜ばれる事を行おう。11:27

当時、女性が夫や子供がなく生きていく事は困難を極めた。それゆえ、戦死した者の妻を王宮に迎えるというダビデの行為は、人々の目からは称賛されたかもしれない。しかし、神の目にはそうではなかった。

どのような美辞麗句を並び立て、様々な行いによって、人々の目をごまかす事はできても、神の目をごまかす事はできない。

そして、私達自身の心もその事を知っている。ダビデ自身も罪を言い表すまでは、心には平安がなかったと詩編にうたっている。(詩編 32 編)

逆に、神の目にならなっていた事をしていても、時に人々の目にはよく映らないこともある。しかし、神の目にかなうことをしていくなら、私達の心は深い平安と喜びにみたされる。又、やがて神の報いを受ける時がやってくる。かつてダビデは、自分の命をねらったサウル王に対して、主のゆえに誠実に対応し続けた。結果的に、サウル王は戦いで命を失い、ダビデは多くの者に慕われる王となった。

私達は、人の目にどう映るかではなく、どこまでも神が喜んで下さる事を行おう。

### 【チャレンジしよう】

- 1: 今週、祈りと御言葉の時間をどのようにもっていきたいですか。
- 2: 今週、神様の喜んで下さる事をする為にどのようにしていきたいですか

### ●メモ

---

---

---

---

---

---